

# イワナの個体群における生態的特性と遺伝的多様性の関係

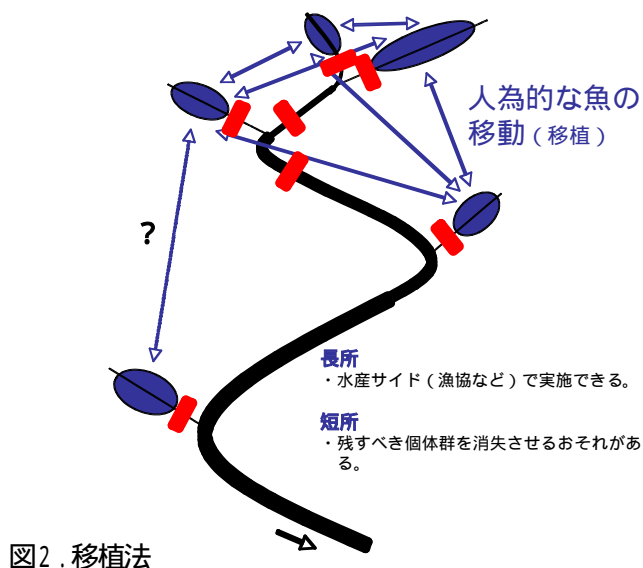
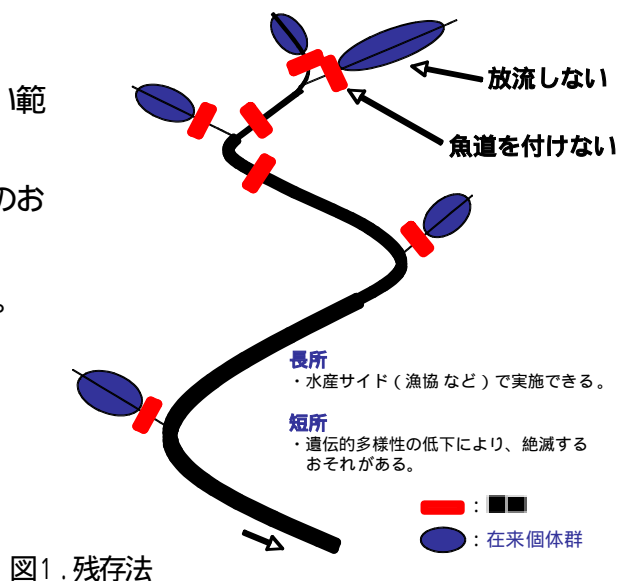
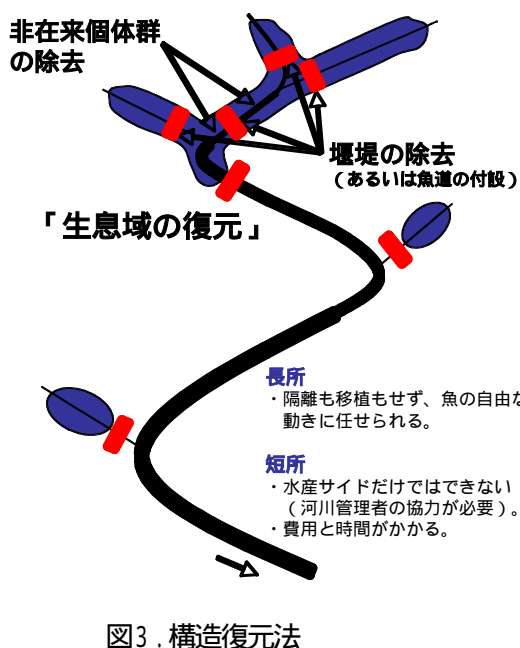
## 背景と目的

川や湖での在来個体群，すなわちそれぞれの場所で固有の遺伝子を持った魚たちは，生息環境の悪化等の影響を受け減少しつつある。これに対し，遺伝的多様性の保全の観点から，イワナを対象として個体群の保全方法を研究した。



## 成果

1. イワナの在来個体群の多くは，ダム上流の狭い範囲に隔離されて生息していることがわかった。
2. これらの個体群の遺伝的多様性は低く，絶滅のおそれがあると考えられた。
3. 在来個体群の保全方法を開発した（図1～3）。



## 波及効果

1. イワナに限らず，淡水魚の在来個体群の生息状況は似通っている。今回開発されたいずれかの方法により，生息状況や社会状況，資金などに応じて，在来の個体群を保全できる。
2. 国交省や都道府県の土木部などに対して，在来の個体群を保全するための河川の管理方法を提言できる。

問い合わせ先: 内水面研究部 生態系保全研究室(中村)